

松浦民報

2014年 2月

発行 日本共産党松浦市委員会 電話・FAX 0956-75-1947

ブログ「ゆう子のひろば」http://pub.ne.jp/yukoya/

日本共産党松浦市委員会の見解を紹介します。



日本共産党松浦市議会議員

安江ゆう子の市議会だより

2013年12月市議会

高校生まで医療費助成の拡充を

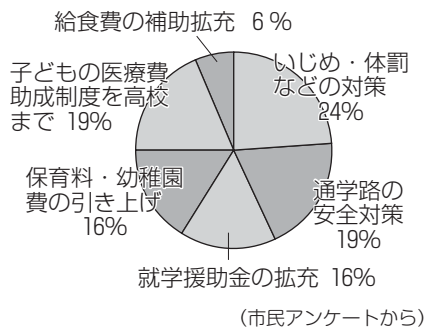
日本共産党の安江ゆう子市議は2013年12月市議会で、「住宅性能向上リフトーム支援事業」や「高校生までの医療費助成制度の拡充」、医療機関の防火対策問題や玄海原発問題、「つばき荘」問題などについて一般質問を行いました。

松浦市の子ども医療費助成制度は中学校卒業までに拡充されており、この制度は県内の自治体に拡がってきています。安江ゆう子市議は自らが行った「市民アンケート」をもとに高校までの医療費助成制度の拡充を求めました。

安江 医療費助成を高校生まで対象年齢を拡大した場合の財政負担はどのようになりますか。

子育て・子ども課長 今年度の高校生世代の人口をもとに推計すると対象者は6000人程度、助成額は年間250万円程度で、昨年度の中学生の決算の額が260万円程度

子どもたちの成長のために



で、昨年度の中学生の助成額とほぼ同額ではないかと推測している。

市長 これからの市の財政状況を考えると、慎重にならざるを得ない、高校生までの

住宅リフトーム助成制度の継続・拡充を

市民にも大工さんにも大変喜ばれた「住宅性能向上リフトーム支援事業」。2013年10月に始まりましたが、すぐさま予算切れになるほどの事業でした。

安江ゆう子市議は、この支援事業の継続と拡充を求めました。

安江 「仕事が増えて助かっている」という市民の声。しかし、申し込んでも予算が残り少ないので対応できないかもしれないと言われましたが、予算はどうなっていましたか。

都市計画課長 県の補助額が561万3千円、市の補助額が180万9千円。問い合

拡大は困難だと思う。

安江 今、一人親家庭の子ども医療費は18歳まで助成されておき、子ども医療費助成制度というのであれば、高校生まで拡充すべきです。

わせは77件(2013年12月10日現在)。バリアフリー・安

有床診療所のスプリンクラー設置に援助を

2013年10月に福岡市で発生した有床診療所の火災(死亡者10人)事件をもとに、医療機関の防火体制の問題について質問しました。松浦市には医療機関が15施設、そのうち入院施設のある医療機関は11施設あり、ベッド数は合計399床あります。安江ゆう子市議は、有床診療所のスプリンクラー設置に市の財政支援を要求しました。

全型で11件、省エネルギー方で15件、防災型で4件、ダブルの方もおられ、申請者数は18名。補助金ベースで719万1千円で、補助対象外の工事も含め総額で3670万円の総工事費となっています。

火体制の問題点はどういうのが指摘されましたか。
消防長 重大な不備、欠陥はありませんでした。11施設のうち3施設で誘導灯のバッテリーの容量不足とか自動火災感知器の感度不良等の不備がありましたので改修するよう指導し、11月25日までに全て改修が終わっています。有床診療所で、夜間の体制がなかなか厳しいといいますが、1人体制といったところがあ

市長 住宅性能向上リフトーム支援事業は非常に市民の皆さんにも評価をいただいておりますし、市内の建設業者への受注機会を拡大するということが効果が大きいことを私としても認識しています。したがって26年度も県がこの制度を継続していくよう強く要望してまいりたいと思います。

一番の課題ではないかと考えています。
安江 この夜間の1人体制ということが課題ですが、医師会などの話し合いはどうなっていますか。
市長 医療機関に万全を期していただくよう申し入れをし、どういふことをそれぞれの施設で対応されるのか報告を求めるように取り組んでいきたい。

安江 福岡市の医院の火災の後、松浦市としてはどのような対応をされましたか。

安江 有床診療所はスプリンクラーの設置が義務付けの対象ではありませんが、今回の火災で厚労省がスプリンクラー設置に半額の補助を決めました。残りの半額について市の支援の検討はできませんか。

消防長 入院施設のある医療機関に、火災当日に電話による注意喚起を行いました。翌日に注意喚起のパンフを作成し関係者に配布しました。さらに10月15日から17日までの3日間、入院施設のある11施設に立入検査を行いました。

安江 立入検査の中で、防